

【利根川環境保全実行委員会】

3/6(日) 朝9時~11時半

利根川河川敷クリーン作戦

参加者募集!

第11回利根川左岸河川敷 クリーン作戦

【日時】3月6日(日) 9:00~11:30 小雨決行

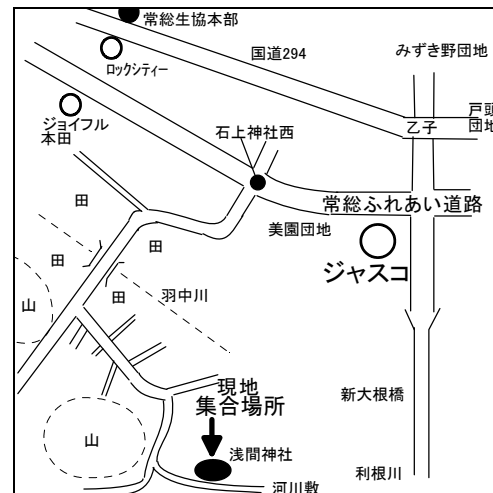
【規模】1,000人規模

【集合場所】守谷市高野「浅間神社」前
(駐車OK) 生協発は8:30に本部集合

【服装】長靴・長ズボン・長袖シャツ・ゴム手袋

【主催】利根川左岸河川敷環境保全実行委員会
(市民団体・環境団体・企業ほか 30団体)

【後援】国土交通省・守谷市



国民の環境意識が高まり、川を直線化したり護岸をコンクリート化する効率性重視の河川管理・土木公共事業に批判が強まったことを受けて、1997年に「河川法」が改正され、旧来の「治水」「利水」だけだった法の目的に「河川環境の整備と保全」が加わり、「国民・市民が水辺環境に親しめる河川づくり」に転換されてすでに13年が経過しました。



早春の一日、河川敷でがいっしょにしませんか!

現在、守谷から取手の利根川左岸河川敷は、利根川が増水したときに水を遊ばせる区域「稲戸井遊水池」としての目的で、国が私有地の買い上げをすすめています。

国土交通省はこの河川敷を「遊水池」にするために掘削工事をはじめました。その土砂は対岸の柏に接する右岸の堤防の護岸工事に運ばれています。

河川法改正によって水辺環境の保全と市民参加による整備が謳われたことから、野鳥の生息地は工事を避けて保全するために斑模様の掘削となっていたり、ある程度まとまった掘削ゾーンは普段は市民グラウンドとして使用できるようにする意向もあるとのこと、市民の意向が反映されるよう働きかける予定です。

守谷では、こうした国の動きの中で、河川敷の自然を守りながら、国の河川改修に少しでも市民の声をを入れてゆこうと10年前に市民や環境団体、村の婦人会などの団体が集まって「守谷利根川環境保全実行委員会」が発足し常総生協も役員として参加してきました。

河川敷での小麦栽培や、菜の花・コスモス畑、そしてクリーン作戦と、市民がかかわり市民が親しめる憩いの場としての河川敷づくりをすすめてきました。(小麦畑・コスモス畑は国の掘削工事区域に入り中止となりました)

河川敷クリーン作戦は今年で11回目を迎え、毎年参加者が増えてゆき、1,000人を越える市民や児童が参加してくれるようになりました。

利根川クリーン作戦に参加します!

コース名 _____ 班名 _____ 氏名 _____

人数 _____ 人 tel _____ 集合場所 (現地・生協本部)

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2010年度活動テーマ
手間いらず、愛情たっぷり
楽しく 母さん
早わざ 交流

【ものづくり、人づくり、地域づくり】

地域がつながれ! 地場生産と家庭での加工まで

地元の大豆で手作り味噌

今週、手作りみそ素材

最終で~す!

(商品カタログ裏面16ページ)



荒川沖幼稚園



柏会場



本部会場



土浦都和小PTA



守谷会場



大豆生産者 やさとの島田さん
来年は在来種で!



つくば会場



牛久幼稚園



我孫子会場



龍ヶ崎会場



生協新人職員



牛久幼稚園



荒川沖幼稚園

【訂正】News Letter 2月3月号 裏面 『TPPと食料/大豆』

「大豆の輸入関税率」の訂正

大豆の輸入関税率 「1%」(誤) → 「無税」(正)

確認を取らずに昔のノートの誤記からそのまま転載・印刷してしまいました。大豆はすでに昭和30年代から関税撤廃して輸入開放しています。お詫びし訂正いたします。(大石)

【TPP 紙面リレートーク】今週は沖縄の真南風(まはえ)さんから 「沖縄の自立」に向けて私たちのできること

いつも常総生協の組合員の皆さまにはお世話になっております。昨年から真南風代表に就任しました坂本と申します。今後ともよろしくお願ひします。

さて早速ですが、ご質問いただいた「TPP」について私の知る限りでお答えいたします。不正確な部分もありますがお許しください。

行政の対応を申し上げますと、沖縄県及び各市町村はほとんどがそれぞれの議会にて「反対決議」を行い、政府に対し旨を表明しています。

それに対し国の対応は聞く耳を持たぬようです。先日、民主党の前原氏等が来島し「県全体所得の農業所得が占める割合は1.5%しかない。そこが自由化によるそのほかの産業の伸びを妨げるとはいかかなものか」というニュアンスにていっておられました。「農業に対しアメは用意するけど」を付け加えて。これが国の姿勢で「基地問題」対応と変わりはありません。

沖縄県の農業生産のトップは「さとうきび」「畜産(繁殖牛の生産)」「たばこ」「その他」になります。上の3つで70%以上しめるのではないのでしょうか？

沖縄に来られた方はご存知ですが、空からみればほとんど畑はさとうきび。または、草地です。離島(宮古・石垣島をはじめ)の風景は島のほとんどがさとうきび畑です。

一方、今回のTPP関税自由化の対象品目に「さとう」「畜産品」があります。当然価格競争力があるはずもなく、沖縄の農業はもちろんのこと畑そして島の経済・地域はTPPを無条件に受け入れ構えもなければ完全に破壊します。そういう意味で日本の中で最も打撃をうけるのではないかと考えております。

一方、悲しい現実もあります。収穫した「さとうきび」は製糖工場・JAに納品してトン当たり2万円農家に支払われます。しかしながら、その実際の価値は3千円といわれその差額は国から補助を受けているのが現状です。またJA沖縄の収入の6~7割は政府からの補助金といわれます。JA職員が何を見ながら仕事しているのかは推して知るべしです。つまり、米軍基地と引き換えに金をたれながし借金漬けにされ、沖縄農業はモノカルチャー化し価格競争力も失い、行政・JAそして農家の自立心も失っているのが現状です。国が強気で押してくる理由もそこにあるのだと思

います。

真南風としては、現時点においては「TPPの導入に対して反対」の立場です。このスピードで導入されれば、前述したとおりで離島は無人島化することさえあるでしょう。それか、更なる借金漬けに。

政府・行政が計画的に自立できる農業・地域を育成できるか？それは、はっきり「ノー」です。

しかしながら、今回のことは沖縄農業・地域が自立していく大きなチャンスとはとらえています。現在、真南風はかぼちゃ・玉ねぎ・トマト・いんげん・ピーマン・ミニトマト・おくら・パイナップル・マンゴー等を有機栽培・特別栽培のレベルで約80名の農家に沖縄全域で栽培してもらい、県外に出荷しています。取扱高で約4億になります。基本的には真南風の創立の趣意は「沖縄の自立」であり「持続可能な農業の普及とそれを通じての美しい環境の保全」です。

私たちのできること・やらねばならないことは、沖縄全体として「さとうきび」栽培から上記のような作物の栽培への転換を促すように、我々の生産者の仲間を増やし今まで以上に「県外の消費者」に沖縄の農産物を見とめてもらうこと。そして地産地消(県内消費)を喚起し、国外も視野にいれた販売活動を模索することです。回り道ですが、この活動を積み重ねていきたいと考えております。あとは、愚策を繰り返す行政とのスピード勝負です。「沖縄の自立・農業の自立」は絵に描いたもちではなく、実現可能なものとおもっています。そうなれば「TPP」などおそるにたりません。

要領をえない長い文章で申し訳ありません。現時点での私の考え方です。ご参考になれば幸いです。

今後ともよろしくお願ひします。

【真南風発 沖縄の産物】



夏っこパイン
島黒糖(かちわり)
石垣島仲新城さんの黒米
亜熱帯のジュースパイン
名護市渡嘉敷さんたちのシークアサー
ゴーヤやオクラとその生産者たち

【1/22 茨城県有機農業研究会】TPPに抗する新たな出会いと協同リレートーク... 常総生協からは高橋理事

「自由貿易的でない生き方をわたしたちがみつけてゆくこと」

常総生協は茨城県の守谷が本部ですが、千葉県まで活動エリアが広がっておりまして、千葉の理事として、今日は我孫子市から参りました。利根川を隔てて取手市と接し反対側は柏市に接し、長く湖沼汚濁度No.1だった「手賀沼」があり、利根川から水を入れて水はきれいになったけど生態系が変わっちゃったと言われてるところです。



私の街、我孫子市の議会で先日「TPP締結反対、日本農業の再生をはかる決議」が採択されました。しかも賛成多数で。ところが明日市長選挙ですが、地域の農業を守っていかうという人と、これまでの市の方針を変えて工業誘致をしていかうという現市長が立って街が二分されています。TPP反対・農業を守る決議は多数で採決されたにもかかわらず、「農業ではなく企業誘致しよう」と言う市長をはじめ過半数を占めている。

今我孫子には、大手の不動産屋が泊まり込みで来て、農家のおばあちゃんに「相続税でとられちゃうから今のうちに借金してアパートを建てておいた方が得だよ」と言って農地を買い漁っている。「こんなところにアパート建てて大丈夫かしら」と言うと、「ちゃんと手当するから大丈夫」と。実態は不動産屋の社員がまず入居するのです。不動産屋が農地転用を煽っている。

地域の農業を守りたいのか、工業誘致をして田畑をつぶすのか、明日の市長選で市民がどう判断をするのか。

今我孫子で起きていることは国でも同じではないでしょうか。農業を守っていくために所得補償しましょうと言っておきながら、片方ではTPPで自由化しましょうと。国際社会でも環境や資源を守っていかなければいけないといいながら、他方で自由貿易で資源を収奪して過剰にモノをまわして資源を枯渇化させる環境破壊をする。

矛盾したことが語られて、それを「変だね」と思うことが変に思われる時代。どうしたら「これは変だね」って

ちゃんと言えるのか、なかなかわからない。

「自由貿易」「自由競争」と言われますが、わたしたち一人一人の中で「自由だからいいのかな？」ということを考えないと答が出て来ないのでは。

「買いなさい、関税かけてはいけません」と。でもわたしたちには買わない自由もある。これまでのいろんな国の歴史でもどンドン安い農産物が入ってきて自給の農業を捨てて、輸出するための農業に切り替えてしまつて結局食べられなくなってしまったという歴史がある。

自分の国の産業を守るために本来「関税」とかがあるのに、「なんでそれがいけないんだろうか？」というのが、難しいことはわからないけれど、私の率直な感想です。

今、いちばん下の息子が社会科で歴史を習うのですが、「日本は不平等条約を結ばされて、その不平等は何ですか？二つ答えなさい」という問題があるんです。「関税自主権がない」と「治外法権」です。このままでは植民地化されてしまうということで不平等条約を解消させるために明治の先達は苦勞してきた。

こういうことを子ども達は習っているんですが、今起きていることは「それとどうちがうのかな〜」と私の頭は思ってしまうのです。そんな素朴な話しをするとかにされるのですが。

物理学者の槌田敦さんという方が、貿易による環境破壊について書いていますが、貿易というのは実は儲けるのは貿易商と。WTOの交渉というのは貿易商の代表が集まっているところと。

自由という言葉が魔力を持っている。「自由は良いことだ」という観念がある。わたしたちはそういう理屈ではなくて、「自由貿易でぐるぐるモノを回して豊かになったことはやっぱり変なんだ」ということを一人一人の生活者として、別な生き方ができるようになったらいいのかな。

だから「自由貿易」を是としてTPPを変えることは難しい。自由貿易的な生き方暮らし方ではなくて、ちがう生き方をわたしたちがみつけていけばいいのかなと。先ほど茨城有機の代表の方が「有機農業的な生き方」と言っておられて、「そのことなのかな」とひとつ答を